

ものがたりの内ようを読みとる

組 番		月 日	正答数
名前			4



● 場面ばめんのようすや登場人物とうじょうじんぶのようすを思いえがく。



つぎの文しように読んで、あとのもんだいに答えましょう。

山のたけやぶに、とらがすんでいた。なまえはトラノ・トラゴロウといった。トラゴロウはまいにちたけやぶの中であぐらをかいて、きせるでたばこをふかしていた。でも、たばこばかりふかしているとおなかへってしまうから、たけやぶのそとをだれかがとおりかかったら、つかまえてむしやむしやたべてしまうことにしていた。ある日、たけやぶのそとをりようし①がとおりかかった。トラゴロウはちょうどおなかへこぺこだったので、さっそくりようしをつかまえてひとくちにのみこもうとした。りようしはまちへでかけるとちゅうでてっぽうをもっていなかったので、どうすることもできなかった。

トラゴロウのまっかな口とながあいしたときらきらひかっているきばをみると、りようしはがたがたふるえだした。

「た、たすけてくれトラゴロウ。② いいものをあげるから、わしをたべるのはやめてくれ。」
「③ なんだい、いいものって？」

と、トラゴロウがきいた。

すると、りようしはポケットの中からさびたかぎをだして、トラゴロウにわたした。「なあんだ、ただのかぎじゃないか。」

トラゴロウが、つまらなそうにいうと、りようしはあわててせつめいをはじめた。

「いやいや、それはただのかぎじゃないんだ。ここから山をこえ川をわたり森をぬけたところに、のはらがある。のはらのまんなかには、まつの木がいっぱいあって。そのまつの木のねもとをほると、はこがでてくるはずだ。そのはこをこのかぎであけてごらん。きっとトラゴロウのたべたいものがはいているよ。」

「ふうん、なんだかへんだけどしかたがないや。こんどだけはおまえをたべないでおいでやろう。」

トラゴロウは、せっかくなまえたりようしをはなしてやるのがざんねんでざんねんでたまらなかったけど、がまんしてはなしてやった。

(小沢正「目をさせトラゴロウ」より)

◆読みとりのポイント①◆

⑨だいせう

だれがどうしたできごとが書かれているか、あらすじをとらえましょう。

登場人物

トラゴロウ

りょうし

できごと

トラゴロウは、りょうしをつかまえて、のみこもうとした。

りょうしは、いいものをあげるから、たべるのはやめてくれといった。

トラゴロウは、りょうしをたべるのをがまんしてはなしてやった。

①(1) りょうしがとおりがかったとありますが、このときトラゴロウは、どんなよう

すでしたか。そして、どうしようと思いましたか。つぎの□にあてはまることばを、文しよう中からぬきだしましょう。

①トラゴロウは、

--	--	--	--

がぺこぺこだった。

②トラゴロウは、

--	--	--	--

をつかまえて

--	--	--	--	--	--

とした。

(2) 「なんだい、いいものつて？」とトラゴロウにきかれたりょうしは、どうしま

したか。つぎの□にあてはまることばを、文しよう中からぬきだしましょう。

りょうしは、

--	--	--	--

の中から

--	--	--	--	--	--

を

だして、

--	--	--	--

にわたした。

◆読みとりのポイント②◆

⑨だいせう

りょうしのようすを思いえがきましょう。

・トラゴロウがのみこもうとしたとき

↓ がたがたふるえだした。

・トラゴロウがつまらなそうにしたとき ↓ あわててせつめいをはじめた。

(3) 「いいものをあげるから」とありますが、りょうしは、どんなふうに言いまし

たか。つぎから一つえらびましょう。

1 トラゴロウに気づかれないように、小さな声でささやくように言った。

2 トラゴロウが食べるのをやめるように、おねがいするように言った。

3 トラゴロウがびっくりするように、とても大きな声でさげんだ。

4 トラゴロウをおこらせないように、のんびりした声で言った。 へ ー

ものがたりの内ようを読みとる



(1) ① おなか

② りょうし・のみこもう

(2) ポケット・さびたかぎ・トラゴ
ロウ

(3) 2

(2) りょうしは、トラゴロウのたべた

いものがいっているはこのかぎを、
「いいもの」としてトラゴロウにわ
たそうとしたのです。

(3) すぐ前と後ろに「たすけてくれ」
「やめてくれ」とあることから、りよ
うしがおねがいするように言ったこ
とがわかります。